夏目漱石

を登りながら、こう考えた。

　知に働けばが立つ。にさせば流される。意地を通せばだ。とかくに人の世は住みにくい。

住みにくさがじると、安い所へ引きしたくなる。どこへしても住みにくいとった時、詩が生まれて、ができる。

　人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。やはり向うにちらちらするただの人である。ただの人が作った人の世が住みにくいからとて、す国はあるまい。あれば人でなしの国へくばかりだ。人でなしの国は人の世よりもなお住みにくかろう。

－14－

　すことのならぬ世が住みにくければ、住みにくい所をどれほどか、くつろげて、の間の命を、の間でも住みよくせねばならぬ。ここに詩人という天職ができて、ここに画家という使命がる。あらゆる芸術の士は人の世をのどかにし、人の心を豊かにするがゆえにい。